

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100167		
法人名	医療法人 祐和会		
事業所名	グループホーム ユーミー ひかりユニット		
所在地	松江市津田町313番地		
自己評価作成日	平成25年12月17日	評価結果市町村受理日	平成26年02月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	鳥根県松江市上乃木7丁目9-16		
訪問調査日	平成25年12月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

誰もが笑顔で過ごせるホームを目指し、職員は利用者様に対し気配り・目配り・思いやりを大切にしている。事業所の利便性を活かした日常的な外出支援の他、利用者様の希望に応じ市外への外出を行うなど、外出支援に力を入れている。開所から4年が経過し、地域との繋がりが年々広がりを見せ、地域行事や地域小学校行事への招待を受けることも増え、地域の方との交流の機会も多く持つことが出来た。また併設診療所医師との連携に加え、今年より協力医療機関が1つ増えたことにより、利用者様への医療面のサポート力を高めることが出来た。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

松江駅に近く、商店や事業所、会社関係の建物が多い所に位置している。そのため地域密着型施設として地域住民との繋がりが必要を感じながらも、勤めにくい思いがあったようだが、小中学生の体験等の受け入れや公民館との交流など、地道な働きかけが段々と理解を得てきているように思われた。利用者の理解を深め、よりよい介護計画の作成の為に取り組みにも工夫がみられ、そのことが施設全体の明るさに繋がっているようでとても好感がもてた。今後も、専門である認知症のケアを含め、家族や地域の関係者の方々に役立つような、啓発活動をより充実させていただきたい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの玄関やエレベーター内に掲示すると共に職員が使用するテーブルに張り付ける等して常に目に触れ、意識できるようにしている。	2年前療養型から変わった時に職員全員で作成したもので、特に声かけを重視している。研修時にも取り上げているものの、意識の継続は難しい為、机に張ることで目に付くようにし、理念を共有するようにしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや文化祭など、行事には積極的に参加している。また、今年初めての取り組みとして、地域の方を招いてのお茶会開催を行うことが出来た。	地域の小中学生の受け入れを行ったり、公民館活動に参加する等、年々交流を重ねてきた成果が出てきており、地域の婦人部の参加で行事の開催も行うようになっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元小学生の『ふれあい町探検』学習や中学生の福祉体験学習などの受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や活動報告を行い、参加者と意見交換や情報交換を行っている。会議の中で得た情報や、アドバイスを日々のサービスに活かしている。	毎回多くの利用者と家族の参加も得て開催されている。自己紹介をしたり体験談を話したりと、利用者からも積極的な意見がでていく。地域や行政の方も毎回参加があり、貴重な意見交換の場となっている。	利用状況の報告や意見交換だけでなく、幅広い内容を検討いただきたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回運営推進会議に参加して頂き、現状の報告や必要時に相談が出来る体制が整っている。	運営委員会では地域の方々が関心をもっておられる防災関係の話をしてもらったり、生活保護担当者に相談をもちかけたりと、良好な関係ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会のメンバーを中心に毎年度マニュアルの見直しを行い、定期的に施設内研修を開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	虐待防止を含め委員会ができており、日頃から身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外部研修へ参加したり内部での研修も開催して意識統一を徹底している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会のメンバーを中心に定期的に施設内研修を開催し理解浸透を図っている。また今年自作のポスターを制作し、ホーム内に掲示することで、職員の意識づけに取り組んだ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の開催を行い、職員の理解を深めるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を掛け丁寧に説明するよう心がけている、特に、入居後に起こりうるリスクや重度化対応については詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望や意見を出してもらう機会として、利用者自治会を定期的に行っている。また毎月、家族には状況報告のお便りを送付する他、こまめに電話での報告や相談を行い、家族の意見や要望を確認するようにしている。	2ヶ月に1回利用者自治会の開催を継続しており、意見を聞く場としている。家族へは担当者が毎月写真入りの手紙を送っている。ユーミー通信も3ヶ月1回送付することで意見を求めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日頃から職員の意見や要望を聞くようにコミュニケーションを図り、互いの意見が言いやすい雰囲気作りを心がけている。	若い職員や慣れない職員もいるので、いつでも話を聞く体制を作っている。表情等を見て声かけをし話をする時間をつくるなど、意見が聞きだせるよう気を配っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況に応じて、労働時間の変更を行うなど、配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には出来るだけ多くの職員が受講できるよう勤務調整などを行っている。資格取得のための支援制度があり、資格取得後は給与に反映される。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会等の参加を通じ、情報交換を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談において、本人や家族、関係者から話を聴き、生活状態を把握するように努め、本人の不安や意向を汲みとるように努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談の際に時間を設け、家族の困っている事や不安なことをゆっくりと伺うようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や、本人・家族のニーズに対応することが困難な場合は、事業所で出来る範囲を伝え、必要に応じて他のサービスを紹介するようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、出来ることに参加してもらい、互いに助け合い、支えられる関係を築くように努力している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の距離が離れ過ぎないように、家族に支援をお願いするなど協力体制を整えるようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の来訪時にはゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。馴染みの関係継続の為に、通いなれたスーパーでの買い物や美容院の利用、地元の祭りへの外出などの支援を行っている。	交通の便が良いこともあり面会も多い。以前から利用していた美容院やスーパーでの買い物も職員が同行している。食材の買い物など外出の機会をできるだけ増やしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について職員間で情報共有を行い、良好な関係が保たれるよう雰囲気作りなどの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人や家族からの要望があれば相談に応じ、必要時には情報提供もを行っている。また家族の了解を得て、転居先や入院先に面会に行き、話を伺っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人が何気なく口にされた言葉や呟きから思いを汲み取るようにしている。把握が困難な場合には、家族の意見や意向を確認し、本人ならどのように思うかを本人の目線で考えるようにしている。	アセスメントにセンター方式を利用しており、以前の生活や気持ちの把握のために、暮らし方シートを利用者自身に記入してもらうなど、理解を深め充実したアセスメントになるようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の段階で本人や家族、関係者から可能な限り情報を得るように努め、入居後も継続して情報を聞き取り、職員間で共有できるように取り組んでいる。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを把握し、生活リズムの乱れや普段と違う行動が見られた場合、体調の変化がないかなどチェックするようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向や要望を聞き取り、職員間で協議し介護計画を作成するようにしている。	プランの見直しの際、会議への参加が難しい家族へはアンケートを送り意見を聞くようにしている。モニタリングはケアマネが中心となり月1回実施。計画もわかりやすい言葉で作成されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイル、申し送り表、連絡帳などを活用し、情報が正しく職員間で共有できるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する状況や要望に対して柔軟な支援が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の民生委員や福祉推進委員らから情報や助言を頂き、活用している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居前のかかりつけ医を継続して頂くが、本人や家族の希望があれば事業所の協力医療機関を紹介している。家族と協力し通院や受診を行ったり、往診を依頼するなど複数の医療機関と関係を密に図っている。	以前からの利用を継続しているが、家族対応が難しい場合は介助している。かかりつけ医に内科の協力医院を増やしたり、定期的な往診に加え緊急時の体制も充実している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化や異常を感じた時は看護師に報告し指示を仰ぎ、適切に受診が行えるように体制が整っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は頻繁に面会に行き、状態を確認するようにしている。また家族とも情報交換をしながら早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応指針を説明し、事業所の方針を理解して頂いている。段階に応じ、家族との話し合いの場を設け、その都度意向の確認が出来るようにしている。	入所時も段々と重度化していく段階に於いても、ここでの対応について説明していきながら、体制を整え受け入れていく意向がある。	幅広い内容の研修を積み重ねることによって、体制を整えていただきたい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに沿って行動が出来るように、定期的に勉強会を行っている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定での訓練の実施や利用者参加の訓練実施を年間計画に沿って定期的に行っている。	街中の建物が込み入った中にあるため、火災時には近隣の協力体制をお願いし理解を得られている。以前の経験から食料品、水、薬、毛布、カイロなどの備えも充実させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護マニュアルを基に年1回職員に対し勉強会を行っている。プライバシーに配慮した言葉かけなど日頃気づいた点については互いに注意し合い、意識を高めるようにしている。	声かけを含めた接遇や個人情報についての研修を内部で企画し実行している。通信等への写真掲載の際にも了解を得て行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事柄でも選択肢を提示し、本人が自分で決定できるよう促している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や要望を最優先と考え、職員も柔軟に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から化粧やおしゃれを楽しんで頂けるよう取り組み、職員に美容師がいる利点を活用し、カットや毛染めにも臨機応変に対応ができています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人には調理の一部分でも手伝ってもらうように働きかけている。その日の体調や希望に応じ、献立の変更や食事形態の変更など柔軟に対応している。	1週間前に献立を作成し材料の買い物も利用者と一緒にしている。主に調理を担当する数名を中心に利用者もできることを手伝いながら調理している。職員が間に入り楽しい雰囲気の中で食事が摂れている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼・嚥下状態に応じて食形態を随時見直し変更を行っている。補食用に、飲むゼリーなどの栄養補助食品も活用している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの促しを行い、必要に応じて仕上げ磨きや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄ができるよう取り組んでいる。	車いすの方も昼間はできるだけトイレでの排泄を促している。排泄記録でパターンを把握し、さり気ない声がけで誘導介助している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヨーグルトやヤクルトをお出ししている。水分補給の促しや、適度な運動、献立に食物繊維を多く含む食材を取り入れる等、自然な排便を目指している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望やタイミングに応じて入浴が出来るよう支援している。	湯温や入浴剤、備品の希望も聞き、くつろげるように配慮している。車いす利用の方も2人対応で湯船につかって温まれるよう介助している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の出来事等、個々の疲労度に合わせて休息や睡眠が取れるように配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	写真付きの薬情報を一人ずつファイルに閉じ、随時最新のものに入れ替えを行っている。状況の変化がみられるときは看護師に報告し相談を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの有する能力や習慣、要望等を把握し、本人にとっての楽しみや役割が何かを考えながら個別の支援を行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者から外出希望が出た際には外出を行い、天気を見ながら職員からも外出の声掛けを行っている。遠方への外出は家族の協力を得る等して対応している。	大きな外出行事については計画的に実施されているが、普段は天候や体調に合わせて、少人数ずつでできるだけ出かけるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理を希望される方には所持をして頂いている。家族よりお金を預かり事業所で管理している場合においても、外出時は本人に財布を渡し、支払いが自分で出来るように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方も数名あり、自分の好きな時に電話を掛けたり受けたりされている。事業所の電話も自由に使って頂き、手紙やはがきのやり取りが出来るよう援助もしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感刺激への配慮を行うと共に、利用者の身体状況に応じて、安全に暮らせるよう家具の配置を変更している。壁面飾りは利用者と一緒に飾り付けを行い、誰にとっても居心地の良い空間となるよう工夫している。	廊下が広く車いすでの移動もスムーズ。日中の多くの時間を過ごされる居間は、利用者の様子が良く伺える。壁がきれいに飾り付けてあり、季節感が感じられる。エアコン、ファンヒーター、加湿器等を調節し過ごしやすいよう気を配っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々、自分の過ごしたい場所で過ごして頂けるように椅子は大目に配置し、ソファでも自由に寛いで頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や小物を出来るだけ多く持参して頂くよう入居時に依頼している。居室には家族の写真や馴染みの店のカレンダーを飾る等、本人が自分の部屋だという認識が持てるよう家族の協力を得てレイアウトを行っている。	家で使用していた物の持ち込みを積極的に勧めている。家具やポータブルトイレ等、動線を考え動きやすいように配置されている。床には転倒時に衝撃が少ないように吸収力のあるマットも敷かれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力や状態に応じて、安全に自立して行動が行えるよう環境整備を行っている。		